

JICSB 中小企業研究国際協議会日本委員会の存在をさらに知らしめ、多くの方々の入会参加を実現できますよう、皆様のご協力を心より願う次第です。

ACSB 第二回大会 2014 年 10 月 29～31 日 韓国ソウル市 パレスホテル

ICSB 第六十回大会 2015 年 6 月 6～9 日 UAE ドバイ市

ACSB 第三回大会 2015 年 10 月 26～30 日 マレーシアサラワク州ミリ市

2. 事務局報告



■会員異動報告

2012 年度 (1-12 月) 期初 21 名 期中入会 43 名 期中退会 1 名 期末 63 名

2013 年度 (1-12 月) 期初 63 名 期中入会 2 名 期中退会 1 名 期末 64 名

2014 年度 (1 月より拡大理事会時点まで)

期初 64 名 期中入会 9 名 期中退会 1 名 8 月末 72 名

他に 3 名の方が入会手続き中です。

■中小企業研究ワークショップ 2014 兼 拡大理事会 (「会員総会」)

学振産業構造・中小企業第 118 委員会と共催で 2014 年 8 月 26-27 日に開催しました。

また 2014 年 8 月 26 日に拡大理事会 (「会員総会」) を開催しました。

■オンライン電子投票のお願い

2014 年 8 月 26 日の拡大理事会 (「会員総会」) において認められました以下の事項についてオンライン投票を、9 月 21 日から 30 日を目途に実施する予定です。

お忙しい中恐縮ですが、よろしくお願い申し上げます。

2013 年度事業報告並びに収支決算 案

2014 年度事業計画並びに予算 案

3. 中小企業研究ワークショップ 2014 於 熱海 報告



<http://www.jicsb.org/workshop2014yamamoto.pdf>

JICSB 編集委員 山本聡

(東京経済大学)

2014 年 8 月 26 日から 27 日にかけて、中小企業研究ワークショップ 2014 がハートピア熱海にて、開催されました。JICSB 設立後、3 回目のワークショップです。若干、秋の気配が漂いつつある熱海に、ベテランから若手まで中小企業研究者およそ 30 名が集まりました。

26日14:00からはJICSB総会が開催され、三井委員長の司会の下、加藤副委員長から前年度の活動報告と収支報告がなされました。

また、JICSBの会員拡充、日本人中小企業研究者のICSB・ACSB参加をどのように促進していくべきか、に関して、活発な意見交換がなされました。



参加者全員で記念撮影

小休憩を挟んで15時からはアジア中小企業国際協議会（ACSB）現会長キム・キチャン氏による招待講演会が港監事の司会の下、開催されました。キム ACSB 会長の略歴は以下ようになります。

ACSB 会長、韓国カトリック大学ビジネススクール教授・副学長、ICSB 上級副会長・次期会長、
Journal of Small Business Management 編集委員、サムスン電子・顧問、現代モービス・取締役、
元・大統領経済諮問委員、博士（経営学：ソウル大学）

（詳細は右記の ACSB・URL をご参照ください：<http://www.icsb-acsb.org/about.html>）

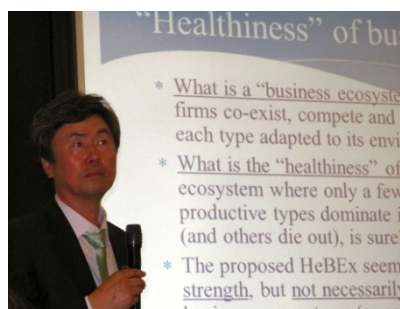
など、韓国の学会・産業界で要職を占められております。また1992年から95年まで東京大学に訪問研究員（Visiting Scholar）として留学されるなど、ICSB・ACSBを通じた知日派でもあります。今回も本務校での業務・教務でご多忙の中、弾丸スケジュールでJICSBサマーワークショップにご参加頂きました。

キム・キチャン氏の招待講演の概要は以下ようになります。

Research on the Healthiness of Business Ecosystems among Countries and Companies :
Role of Entrepreneurship ? From Survival to Sustainability(Longevity)

（国家・企業間比較におけるビジネス生態系の健全性の研究

: 企業家の役割とは何か? 生存競争から持続可能性/長期事業継続へ）



キム氏の報告風景

本招待講演では、

どのように製品・市場・経営といった観点からの既存事業の束縛を克服するか？

マクロ経済とミクロ（企業戦略）の両方の視点からビジネス生態系の健全性をどのように測定・診断するか？

韓国中小企業をどのようにイノベティブにし、進化させるか？

健全な企業の理想的な進化の経路とはどのようなものか？

といった広範な問題意識への回答を軸に進められていきます。

ここで鍵となるのが「ビジネス生態系の健全性」という言葉であり、ある国の経済・産業・市場の健全性は個々の企業行動からの指標（売上高研究開発集約度と生産性）、国家間比較からの指標（研究開発投資、輸出、生産性、起業率）の高低で示されるとしています。すなわち、より遠視的な経営を志向する、より効率の高い企業がより多く存在し、さらに起業が活発であれば、その国の経済・産業・市場はより健全であるといえることができます。逆に言えば、個々の企業が過去の成功体験に拘泥し、事業や製品のイノベーションを志向しなければ、そして、そういった近視的な経営を志向する企業の数が多くなれば、その国の経済・産業・市場は不健全になるということです。キム氏はこうした主張に則り、サムスン電子と LG の企業間比較、欧米アジアの 29 カ国の比較、韓国中小企業の分析を行なわれています。その上で、韓国中小企業を「研究開発集約度の高・低」、「生産性の高・低」から 4 つに分類し、いかに韓国中小企業が研究開発集約度を高くし、生産性を高くしていくか、その理想的な経路を見出すことが韓国の経済・産業・市場の健全性を高める鍵となると主張されました。

本講演は日本の中小企業政策を考える上でも重要な視点を多々提示していると言えるでしょう。

こうしたキム氏の招待講演に対し、岡室 副委員長がコメンテーターを務め、様々な観点からコメントを提示し、先鞭をつけた上で、JICSB サマワーショップ 2014 の始まりにふさわしい熱心な議論が展開されました。その後、キム氏夫妻も参加しながら、全員で美味しい夕食に舌鼓を打ちました。恒例の自己紹介では一人ひとりが全員に向け、自己紹介をすることで、親睦が深められました。

2 日目は、3 名の JICSB 会員から 3 つの報告がありました。

第 1 報告では、ビクトリヤ・カン会員（帝京大学）から「移行経済における新規開業の国際比較」と題し、ウズベキスタンとカザフスタンの 2 カ国における地域レベルの起業率の決定要因に関する報告がありました。丁寧な計量分析であったこと、日本人にはなじみの少ない中央アジア諸国を分析対象にしたことから、議論が白熱しました。



ビクトリヤ・カン会員

第2 報告では、高橋徳行理事（武蔵大学）から「GEM データによる起業活動と起業態度の国際比較」と題して起業に関する著名な国際比較調査プロジェクト GEM データの主旨・概要やデータマイニングのプロセス、国際比較の結果が示されました。著名な国際比較調査の詳細な説明を受け、各会員から様々な質問が提示されました。



高橋徳行理事

最後に第3 報告として、三井委員長（嘉悦大学）から「マイクロ企業・小企業重視に傾く世界の中小企業政策」という題目で各国の中小企業政策とそこにおける小企業・起業の位置付けが概観されました。三井委員長の報告に対しても会員から理論や現場経験など様々な視点に立脚した鋭い質問が幾つもなされました。



三井委員長

このように、ベテラン・若手といった年齢の差や研究手法・対象の違いにとらわれず、自由にじっくりと議論できるのが JICSB サマーワークショップの特徴だと言えます。

27日12:20に三井委員長の閉会の辞をもって、JICSB サマーワークショップは終了しました。その後は、参加者全員で昼食を楽しみ、解散となりました。晩夏に熱海の良い海を眺めつつ、じっくりと中小企業に関する研究報告を拝聴・議論する機会を頂いたことは一会員・研究者として、このうえない喜びです。

4. Journal of Small Business Management Vol. 52 Issue 3



JSBM 52(3) は WILEY ONLINE より閲覧できます。

接続等に問題がある方は事務局までご連絡下さい。

<http://onlinelibrary.wiley.com>

■The Relationship between Resource Acquisition Methods and Firm Performance in Chinese New Ventures: The Intermediate Effect of Learning Capability

(pages 365–389)

Cai,L., Hughes,M., and M. Yin

資源ベース論 (Resource based view) にもとづく中国ベンチャー企業 (343 社) の実証分析。外部資源の購買、外部資源の吸引、資源の内部創造とケイパビリティ、企業業績の関係を明らかにした。

■Charity Retailing in the United Kingdom: A Managerial Capabilities Perspective

(pages 390–406)

Liu G.,and Wai-Wai Ko

NPO が財務安定のためチャリティ販売を促進するとき、いかなるケイパビリティが求められるか、人的資本のマネジメント力、社会資本のマネジメント力、マネジメント認識力の三次元から英国の事例を検討している。

■Antecedents and Performance

Implications of a Sales Department's Learning and Entrepreneurial Orientation in SMEs

(pages 407–426)

Spillecke S.B.and M. Brettel

アントレプレナー志向 (Entrepreneurial orientation, EO) 研究の多くが企業レベルの分析にとどまる中、より粒度の細かい部門レベルの EO について検討している。販売部門のアントレプレナー志向 (SDEO) 並びに販売員の学習志向 (Learning Orientation) と、営業成績の関連について 268 社を対象として実証分析を行った。

■Technology Change and Dynamic Entrepreneurial Capabilities

(pages 427–450)

Andrea Lanza and Mariacarmela Passarelli

経営環境の変化に対応できる高度なケイパビリティである、ダイナミック起業家ケイパビリティ (Dynamic Entrepreneurial Capabilities) という概念を導入し、事例研究を行った。

■Foreign Direct Investments and Domestic Employment of German SMEs:

The Moderating Effect of Owner Management

(pages 451–476)

Zapkau, F.B., Schwens C. and R. Kabst

ドイツ中小企業の海外直接投資により国内の労働市場がどのようなインパクトを受けるか、1072社を対象とした実証分析を行った。

■Determinants of Performance in Microenterprises: Preliminary Evidence from Argentina

(pages 477–500)

Berrone, P. et al

小規模企業の業績を左右する要因は何か、人的資本、革新性、人的資本のコミットメントの強さ、などについてアルゼンチンの約300社を対象として実証分析を行った。

■Testing for Linear and Quadratic Effects between Price Adaptation and Export Performance:

The Impact of Values and Perceptions

(pages 501–520)

Sousa, C., Lengler, F. and F. Martínez-López

中小企業が海外市場展開において柔軟な価格政策を行えるか否かは、輸出責任者の「精神的な距離」 (psychic distance) が鍵になるとして、文化的な距離、保守的な価値観などとの関連についてポルトガルの中小企業273社を対象とし実証分析を行った。

■Antecedents of Service Innovation in SMEs:

Comparing the Effects of External and Internal Factors

(pages 521–540)

Prajogo, D. and C.M. McDermott

探索的(exploratory)イノベーションと活用型(exploitative)イノベーションを推進する組織を構造的に分離することが難しい中小企業はいかなる組織モデルを追求すべきか、豪州・ニュージーランドの196社を対象とした実証分析を行った。

■Strategic Capabilities and Performance in Women-Owned Businesses in Mexico

(pages 541–554)

Gutiérrez, P.R. et al

女性経営企業における、アントレプレナー志向(Entrepreneurial orientation)、市場志向(Market orientation)、学習志向 (Learning Orientation) についてそれぞれの強さと業績の関連について、メキシコの 90 社を対象に実証分析を行った。

■ Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan

(pages 555–568)

Hasumi,R. and H. Hirata

中小企業向貸出の審査モデルであるクレジット・スコアリング (SBSC) が 2000 年以降、日本においても活用されるようになってきている。当研究は SBSC 貸出の収益性について (1)SBSC 貸出の失敗はなぜ起こるか、(2)金融機関はいかに SBSC を活用すべきか、(3)新銀行東京はなぜ SBSC で大損失を被ったか、東京商工リサーチのデータ等を活用して実証分析を行った。

■ The Effectiveness of Management Control in Small Firms:

Perspectives from Resource Dependence Theory

(pages 569–587)

Voss U. and M. Brettel

資源依存理論 (Resource dependence theory) にもとづき、中小企業は人事管理をいかに進めるべきか、成果(output control)、行動(behavior control)、情意(informal control)に着目し、ドイツ企業 317 社を対象とした実証研究を行った。

5. 編集後記



JSBM の紹介も 5 回目になりました。EO や Ecosystem など良く目にしますが、類似概念は既に日本で指摘されてきました。先輩方の研究の蓄積を踏まえて、英語で発信することが大事だと痛感します。また今回は私が息が上がっている中、山本聡先生に、ワークショップ記録など、何かとお骨折りいただきました。ありがとうございました。(加藤)

ICSB、ACSB と参加していますが、やっぱり、一番落ち着けるのは熱海開催の JICSB。開催場所のハートピア熱海からの景色は絶景。今年は夜、花火も鑑賞できました。日中は研究、夜は懇親と、夏に参加するには打ってつけの学会です。(山本聡)